# 総社広報（こうほうそうじゃ）

Soja City Public Relations

2007 2 FEBRUARY
平成19年2月1日 No.23

［輝いている人］ 10 p
片岡皓子さん
［まちの話題］ 11 p
成人記念式
霜月祭
［市政トピックス］ 6 p
自転車の放置はやめましょう
市県民税の税率が変わります
［地産地食］ 19 p
ミツバ
お知らせ 12 p
ボイス 17 p
人権 18 p
特集
救える命、そのために 2 p
●シリーズ●「やっぱりええなあ。総社のまち」「介護保険」「健康アドバイス」「市長室から」 8 p



総社広報 Soja City
2007 2 No.23
平成19年2月1日発行（毎月1回1日発行）
発行／総社市役所 編集／企画課秘書広報係
〒719-1192 岡山県総社市中央一丁目1番1号
電話0866（92）8214 FAX0866（93）9479
Eメール kikaku@city.soja.okayama.jp


# 雪舟逍遥（せっしゅうしょうよう）

## せっしゅうそぞろ歩き ⑪

Sesshu 雪舟没後500年
Master of Ink and Brush: 500th Anniversary

雪舟は一般には山水画家と思われていますが、人物画にも秀でていました。人物といっても肖像画だけではありません。北京の僧魯庵は雪舟のことを「生来、絵がうまく、仏・菩薩・羅漢などの像において、筆をとれば即座に描きあげる」と語っています。

雪舟の仏画は、京都東福寺にいた明兆という画僧の画風を基礎としたと考えられます。この東福寺はこれまで何度か触れてきたように、雪舟が少年のころに入った総社の宝福寺や、後に交際する山口の禅僧たちと深い関係にありました。雪舟の大作「慧可断臂図」（国宝・斉年寺蔵）も明兆の「達磨図」（東福寺蔵）とよく比較されます。しかし、雪舟が随分たくさん制作したはずの仏画の多くは散逸してしまい、図様を含めその全体像を十分に把握するまでには至っていません。

とはいえ、雪舟の人物画における革新性、独創性は、例えば「渡唐天神図」（岡山県立美術館蔵）に見出すことができます。これは「天神が中国に渡って無準師範に禅の教えを請った」という室町時代の禅僧間に広く流布していた荒唐無稽な伝説に基づいた画題で、雪舟の時代にも多く描かれていましたが、おおむね型にはまったものでした。その型とは、道服を着て仙冠を被り、肩から袋を提げ、梅花一枝を携えそむけられては拝むことはできません。表情からも神性が抑制され、菅原道真という実在の学者、文人といった風情が漂います。また、天神の前後には梅や松の枝が巧みに配され、奥行きを強調する雪舟らしい空間構成が発揮されています。あわせて画面を埋め尽くすことで賛詩の入る余地を閉ざしており、文学からの独立、画家の絵だけで完結することの重要さを主張しているのです。本図には「行年八十二歳雪舟筆」の款記があって最晩年の作と判明しますが、雪舟の筆はなお盛んでした。

## 人物画における革新性と独創性

渡唐天神図
雪舟筆
（岡山県立美術館蔵）

文／岡山県立美術館学芸課長 守安 收




みんなでためよう温暖化 チーム・マイナス6%
R100 高品質古紙100%再生紙使用
PRINTED WITH SOY INK 大豆油インキ
総社市役所は地球温暖化防止国民運動「チーム・マイナス6%」に賛同しています。広報そうじゃは、資源保護と環境保全のため古紙配合率100%再生紙と大豆油インキを使用しています。